

令和5年度 第2回 県立横須賀高等学校 学校運営協議会 記録

令和6年1月20日(土)10:45～ 会議室

出席者

鈴木俊彰委員 丸瀬正委員 岩本毅委員 大竹英恵委員 相楽文吾委員 鑪英治委員(校長)
野澤恵津子(副校長・司会) 小飛山智康(全日制教頭) 佐野千香(定時制教頭)
≪全日制 G≫片桐正文(総務グループ) 柴田治郎(学問探究グループ) 山田聡子(生徒支援グループ)
龍見玄太郎(広報図書グループ) 野口広敬(教務グループ)
≪定時制 G≫瓜生正人(カリキュラムグループ) 渡邊敏高(ガイダンスグループ)

1 校長あいさつ

2 会長あいさつ

3 令和5年度 学校運営の基本方針について

令和5年度学校目標について 令和6年度に向けて

(1) 全日制について

①SSH 事業・学力向上進学重点校エントリー校としての取組を二本柱とする

②SSH 事業は今年度8年目。二期3年目。中間評価のヒアリングが昨年10月に行われた。結果は1月下旬に届く。

③来年度に向けて。文化祭・体育祭の学校行事を6月に変更予定。理由は、異常な暑さ。3年生の夏休みの学習時間の確保。

(2) 定時制について

①定時制は個々を大事に、卒業することを第一目標とする。自己肯定感を高め、社会に出すことを目指している。

②「かながわ子どもサポートドック」が全県的に実施され、本校でも実施。

4 本校の教育活動 令和5年度のグループの取組と校内評価について

(1) 全日制

①学問探究グループ

・SSH 事業に係る実績を総合型選抜に利用する生徒が増加。今後も積極的な活用を指導していきたい。

・今年度は各オリンピックへの参加が過去最高の23名となっている。一層活発化させたい。

②生徒支援グループ

・4年振りに制限のない体育祭が生徒主体で行われた。次年度は6月に文化祭が実施される予定で、現在急ピッチで準備作業が行われている。

・「かながわ子どもサポートドック」が全県的に行われ、問題を抱えているがSOSを発信できない生徒、自覚のない生徒に対するすくい上げができた。

③広報図書グループ

・全担任にiPadが支給され、クラス運営や生徒指導に活用されている。特に担任による生徒への連絡漏れの予防に効果を発揮している。

④総務グループ

・防災訓練が行われた。また、今後DIGと称する、地図を用いた防災活動が予定されている。

⑤教務グループ

- ・70分授業2年目を迎え、「主体的・対話的で深い学び」の実現のためグループワークなどが増加。
- ・今後も授業改善に向けた授業見学などが行われるよう他教科の授業見学や他校の公開授業の活用を推進する。

(2) 定時制

①カリキュラムグループ

- ・様々な課題を抱えた生徒が入学する。個に応じた支援をしていく。
- ・ICTを利用。定時制の生徒はコミュニケーションを苦手とする生徒が多い。アプリの活用により、コミュニケーションを図るなどしている。生成AIを活用する取組もある。規制するばかりではなく、活用していく。
- ・外国につながる生徒が多くいる。学習の遅れのある生徒もいる。よく取り組んでいる。防災訓練では11月に暗い中での避難訓練を実施。今後も続ける。数を増やすことも検討。

②ガイダンスグループ

- ・教育相談の強化のため、生徒支援の2つのセクションを統合。サポートドックにより、さらに教育相談体制を強化した。
- ・地域との連携も行っている。定時制の文化発表会をコロナ前と同様に行えた。
- ・進路指導については、生徒個々が考える進路希望の達成を目指している。三修制卒業予定者が4名。うち1名は共通テストを受験し、進学を目指している。四修制卒業予定者が5名。

5 意見聴取 協議・意見交換

(1) 質問

①「運動部の活躍について知りたい。」(岩本委員)

→ 「リアルタイムではないが、横高ジャーナルに掲載されている。」(野澤副校長)

②「サポートドックについて。子どもの困り感をすくい上げる事業とあったが、LGBTQの生徒のカミングアウトにつながるような結果はあったか。」(丸瀬委員)

→ 「LGBTQ生徒のカミングアウトに繋がる結果はなかったが、自傷行為のある生徒のすくい上げがあった。」(山田総括教諭)

→ 「本校にはLGBTQの生徒がいる。周囲の生徒に理解を促している。」(渡邊総括教諭)

③「防災訓練について、大規模災害が起きた時、避難してきた人に対する対応はどのようになるか。また、備蓄の状況はどのくらいか。」(丸瀬委員)

→ 「3日間の対応ができる備蓄品がある。昨年度から備蓄品のパックの形で準備。防災倉庫に全生徒分あり。地域の方の分はない。毛布・ヘルメット等も職員分に限定。地域の方の分は一時的には対応できるが、限界があるだろう。」(片桐総括教諭)

④「県立高校の備蓄品はどうなっているのか。」(岩本委員)

→ 「高校は県からの備蓄品はある。本当に緊急時には対応する。県立高校は大規模災害が来たときは開けて避難所となるが、それに向けて備蓄を配備することがない。学校によっては帰宅困難者用の配備がある。東日本の時には近隣の小中学校に避難して宿泊するなどした。」(鑪校長)

⑤「義務教育においてGIGAスクール構想が行われて数年経つが、ICT関係で子どもたちの意識の変化は感じるか。」(丸瀬委員)

→ 「ICTスキルの向上が見られる。」(柴田総括教諭)

- ⑥「進路関係では、前はチャレンジをしていく生徒が減っていると聞いたが、その後の子どもたちの意識の変化はどうか。」(丸瀬委員)

→ 「少し弱気になっているのは感じる。まさに今日出願検討会がある。『この辺でいい』という感覚は感じる。出願までの教員の指導が大事である。」(龍見総括教諭)

(2) 意見

- ①「防災に関して準備が必要と考える。」(大竹委員)

- ②「情報発信については、HPを見ていると、協議会で聞くほど載っていないためもっと色々目につくようにアピールしたらいかがと感じた。」(大竹委員)

→ 「HPについては更なる充実、早いアップを目指したい。」(野澤副校長)

- ③「朋友会では昨年度からホームカミングデーを実施。今年も3月20日に実施予定。今年はYRPに協力を願い、無線に関わる企画を予定。今年もPTAにも声をかけ一層盛大に行いたい。」(大竹委員)

- ④「今ナビ(今のまなびをナビゲーション)に参加した卒業生から、自分の時にもあればよかった、との声があった。もっと活発化を目指したい。」(大竹委員)

- ⑤「花壇のボランティアに朋友会も参加できたらと考えている。学校が少しでもきれいになるよう協力していきたい。」(大竹委員)

- ⑥「体育祭の通常開催に感謝。4年間の空白を埋めるのは大変だっただろう。」(相楽委員)

- ⑦「サポートドックは初めて聞いたが、これからよく聞く言葉になっていくのはいいことだと思う。」(相楽委員)

- ⑧「地域の方から、横高生が地域を掃除していると聞いた。おそらく定時制。うれしいことだった。」(岩本委員)

- ⑨「行事の際にあいさつされるのも気持ちが良い。」(岩本委員)

- ⑩「防災訓練については、町内での訓練も行っているが暗い中でやるという定時制の話は参考になった。高校生の避難訓練は学校でやり、各生徒が自分の住む地域の訓練に参加するようお願いしたい。」(岩本委員)

- ⑪「コロナ明け、今まで通りと違うあり方を模索されていると感じた。」(丸瀬委員)

- ⑫「今年度から1年生を担当。70分授業だとやれることが多く、よいと感じる反面集中力が持たない生徒もいると感じる。化学の授業は難しかったようで当初居眠りしてしまう生徒もいたが、実験などはよくやってくれた。」(鈴木委員)

- ⑬「体育祭の時期変更については妥当。暑さもあるし、総合型の受験も増えてきているので。ただ1年生には少し抵抗があったようだ。」(鈴木委員)

- ⑭「面接指導において、コートを着たままや荷物を背負ったままで入室する生徒がいる。ぜひ高校でも、コートを着て荷物を持った状態からの指導を。また、小論文は書けるが、聞いたことに答えていないものがある。聞いたことに対する答えの指導をお願いしたい。」(鈴木委員)

- ⑮「防災について、教室の中のもの耐震化についても考えてほしい。他校の話だが、実験室の乱雑さなど、危険。建物だけではなく、モノの置き方も注意が必要。」(鈴木委員)

- ⑯「コロナ禍で急速なICT化を感じる。生成AIの活用方法も検討を。」(鈴木委員)

- 6 各部会に分かれて協議 (12:00~12:35)
各部会 今年度の取組及び今後に向けて
- 7 全体で情報共有・各部会より報告

第2回キャリア部会

大竹委員、副校長(司会) 野口 GL、渡邊 GL(記録) 加藤 GL(欠席)

○大竹委員

- ・生徒に大学で何を学ぶのか、つまり学部・学科の理解を促すことが必要。
「例えば日本文学科に入学したが自分のやりたい分野ではない。変更せざる終えない状況になった。」という事例を聞いている。

○野澤副校長

- ・第一志望を決める時期が2年生のこの時期(1月)が多い。
その希望を変えることなく最後まで貫いていくよう指導をするのが、第一希望宣言の意味。近年、国立→私学(早慶・GMARCH)と生徒の進路希望が変化してきた。

○野口 GL

- ・担任として希望レベルを変えさせない指導が必要。
①大学の名前で選ぶ生徒②学部を研究し内容で選ぶ生徒
◇①は多くはないが存在するので、同じレベルでの他大学の学部を紹介する。②大半の生徒は②である。その場合レベルをダウンさせないで同じレベルで選ばせる指導をしている。
・担任として生徒にどう大学を見せるのかが問題。学力的に同レベルの大学を示す。
・大学の情報発信が優れていて、それにひきつけられ進学したところ、ミスマッチという例がある。

○大竹委員

- ・その為には朋友会として、今ナビの活用を考えている。「今」とは最近の卒業生を指します。新しい情報を現役の生徒に流したい。

○野澤副校長

- ・定時制は個別指導が基本。まずは卒業を目指す。そして個々にあった進路に進ませる。

○渡邊 GL

- ・定時制には様々な生徒がいる。中学校の不登校・全日制中退者・外国籍の生徒…
・個々の生徒にあった進路指導を行う。基本になるのは卒業。

○大竹委員

- ・私の息子も同じような状況で進路指導をしている。先生方の苦勞が判ります。

第2回地域連携・ボランティア部会

岩本委員、相楽委員、校長、定時制教頭(司会)、片桐 GL、山田 GL、瓜生 GL(記録)

○相楽委員

- ・コロナ禍で活動が制限されていたため、現在のPTA活動も引き継がれていない部分が多いが、PTA各種委員会は通常開催されている。
・文化祭・体育祭の6月開催への変更は、残暑が厳しい9月開催と比較して保護者としても安心でき

る。また、3年生は受験へ向けて準備する時間の確保にもつながる。

○岩本委員

・平作川のクリーンアップ作戦は、地域の小中学生も参加しているので横高の生徒もぜひ参加してほしい。自転車のマナーもよくなっていると聞いている。

○相楽委員

・PTAの交通安全委員会がリーフレットを作成してヘルメットの着用を呼び掛けている。

○定時制佐野教頭

・定時制でも交通安全教室を開き、指導にあたっている。

○山田 GL

・昨年11月にスケアードストレートを開催した。1年生にはとても効果的であった。

第2回 SSH 部会

鈴木委員 丸瀬委員 全日制教頭(司会) 柴田 GL 龍見 GL (記録)

○柴田委員：今年度の取り組みについて説明。

・各オリンピック、学会、コンペ、発表会に延べ人数60~70名の生徒が参加、来たる3月にはさらに増える見通し。

・国際性の育成は豪州、マレーシア、シンガポールで発表3月にはシカゴへ海外研修実施予定。

・今年度はニュージーランド、イタリア、ドイツからの留学生をホストスクールとして受け入れ。

・SSHⅡ期3年目として、PrincipiaⅢで全員の課題探究のまとめとし、下級生への繋がりも創出した。今後、さらに改善するべく生徒のフィードバックを分析する。

→ (龍見委員：海外研修へ行っていない生徒たちにどう研修成果を還元できるのかが課題。)

○丸瀬委員：せっかくの取組をもっとアピールしたい。目に見える成果があれば良いがどうか。

→ 柴田委員：

・評価方法に課題を感じる。ルーブリックを改定したが、どのような結果が出てくるかはこれから。

・職員の多くがPrincipiaを担当している。この職員の体制は他校よりも確立されている。

→ 龍見委員：目に見えない成果は着実に上がっていると思うが、目に見える成果はさほど出ていない。

成果として敢闘賞のレベルではなく、最優秀賞などでないと世間の注意を引くことができない。

○柴田委員：プレスリリースで何か良い方法はあるか？

→ 丸瀬委員：様々なルートがあると思う。直接依頼することも過去に多々あった。

→ 小飛山教頭：報道には県教委の一定のルールがある。

○龍見委員：神奈川新聞やタウンニュースはどれほどの規模の地元住民に知られることになるのか？効果はあるか？

→ 丸瀬委員：神奈川新聞は市内外問わず各学校へ配達されている。タウンニュースもカナロコ(神奈川新聞電子版)で見られる。タウン紙は三浦半島ではよく見られており、地域への周知には役立つ。

○鈴木委員：SSHニュースはHPに上がっているのか？PTA ジャーナルにSSHのトピックを掲載してもらってはどうか？

→ 柴田委員：毎月上がっている。PTAにも依頼してみる。

○鈴木委員：他のSSH校との比較で言えば、厚木高校は基本的に全て自前で対応しており、その点、横須賀高校は研究機関と連携していて評価できると考える。